



# War Cry

## 8月号

福音版  
2018  
August  
No.2770

二〇一八年 八月一日発行 明治二十八年創刊 福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

# GOOD NEWS ときのかえ

## 憎しみを乗り越えて

石川 和男

もし、みなさんの食事に誰かが毎日少しずつ毒を入れていたとしたらどうでしょう？

も、その毒を食事に入れてるのは私たち自身です。その毒とは、何でしょうか。それは「憎しみ」です。日

薄気味悪い話で始まったことをお許しください。しかし、ある面において、私たちは誰もがこのようなことをしているのです。しか

常、大小さまざまな形で私たちの中に生まれ、私たちの中に溜まっていきます。それがあつた日、堰を切ったように流れ出すとき、

私たちは人を傷つけ、のしり、相手の命を徹底的に破壊するのです。

憎しみは循環し、私たちの力では容易にその悪循環を止めることはできないのです。憎悪はやがて相手のみならず、自分をも破壊し始めます。

八月、私たちは広島、長崎それぞれの原爆の日と終戦記念日を迎えます。それらを通して、戦争の犠牲者としての私たちや私たちの家族をイメージする方も多いことでしょう。しかし、私たちは、犠牲者であると同時に加害者であることを忘れてはなりません。

終戦後、真珠湾の英雄から戦犯になった淵田は世の中の変わりように打ちのめされ、アメリカ人も日本人も憎むようになりました。そして心のすきみきつたとき、渋谷駅で偶然一枚のパンフレットを受け取ります。それは、「私は日本の捕虜でありました」というタイトルで「私は日本の捕虜でありました」というタイトルで著者はデイシエイザー。

「憎しみ」という毒を中和する特効薬は、神の赦しです。聖書の言葉は人を変えます。それは人の心を光の方向へ向けさせるのです。パンフレットを読んだ淵田は後に牧師になりました。アメリカで伝道を始めました。真珠湾攻撃の反省、無知が戦争を引き起こす。この二点を強調する旅をしました。一方、デイシエイザーも牧師になり、自分が爆撃した名古屋で伝道をしたのでした。

七十三年前、真珠湾攻撃に際し、「トラトラトラ」と打電した総指揮官淵田美津雄という人物がいました。彼は戦局が悪化しても「アメリカ人は皆殺し」との信念を変えませんでした。一方、アメリカ空軍にはジェイコブ・デイシエイザーという人がいました。彼は真珠湾攻撃のニュースを聞き、

「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカによる福音書23章34節)



「今に見ている、日本人、皆殺しにしてやる」と復讐心に燃え、日本本土空襲に志願します。一九四二年に爆撃手となり、名古屋

「憎しみは人を滅ぼします。けれども神の赦しはすべての人に命を与えます。神は願う者に、喜んで赦しを与えてくださいます。」(救世軍士官(伝道者))

# 神の沈黙を経験して

— ナイジェル

妻のブレンダと私は、今年一月に、日本での宣教のためニュージールランドからやってきました。日本で奉仕することは私の長年の夢でしたので、とても喜んで

います。私は救世軍の信徒の家庭に誕生しました。父方の祖父は、一九三〇年の大恐慌の頃、家族を捨ててしまい、残された祖母を救世軍が助



ナイジェル・ラスコム  
ブレンダ・ラスコム

けてくれました。また、母方の先祖は、ニュージールランドで救世軍の働きが始まった頃から救世軍に属して来ました。曾祖父は、街頭で救世軍のブラスバンドの一員として楽器の演奏をしていて逮捕され、刑務所に入れられた経験もしました。私には兄と姉がいます。兄はシステムマネジャーをしていて、姉は、ニュージールランドの救世軍の本営(本部にあたる)で、行方不明

の家族を探す部門の責任者をしています。

高校生の時に初めて日本語のことを紹介されて以来日本に興味をもちました。オークランド大学で日本語を専攻。言語学と哲学の学士を取得して卒業しました。ブレンダと結婚したのは、大学時代です。二人の息子が与えられました。

私が七歳の時、初めて神様に私のすべてをお献げします、と祈りました。日曜学校でイエスを信じているよいう招かれた時、隣に座っていた年長の男の子が、「ほら、祈るといいよ、大丈夫だから」とささやいてくれたので、イエスを信じてお祈りを献げることができました。

また、十四歳の時に参加した青年の集まりで、神様がおられるという実感が、自分の全存在を包み込むような経験をしました。それは、認めざるをえない、疑う余地のない神様の完全な存在でした。神様は本当におられ、私を愛しておられることを知りました。

初めて救世軍士官(伝道者)になろうと思ったのは十六歳の時でした。けれど

も私は歌が下手なので士官になるよう神様に召されているというの間違いだと思いません。実際はそんなことはないのですが……。

ある町で銀行の支店長をしていた時期には、神様は私を士官になるようにと招いてはおられない、と思うようになっていました。けれどもその頃、あるニュージールランドの士官がアフリカで交通事故に遭い、四肢麻痺になりました。本営はその士官と夫人の帰国を助ける人を探す手紙を救世軍の関係者に出しました。そこには、「誰か」という文字がありました。その文字を読んだ時、神様が、「それはあなたです。あなたは自分を献げなさい」と言われる声を聞いたのでした。それを妻に話すと、妻は「ついに」と言いました(妻は、私に神様が語りかけるのを待っていたのでした。それから六カ月後の一九九四年二月、二人で救世軍士官学校(神学校にあたる)に入學しました。

妻と二人で小隊(教会にあたる)の働きをしていた時のことです。信徒を訪ねて車を運転していると、急に体中の力が抜けてしま

ました。どうか車を止め、妻が運転して病院に行き、すぐに入院。けれども、その症状の原因はわからず、今も不明なのです。その後六、七年は、何度も再発しましたが、その発作がある三日前には、非常に鮮明な夢を見るので、いつ発作が起るかわかるようになりました。回復に五日から七日かかることもありましたが、その発作が起きた頃、私は神様の存在を感じることもできなくなり、恐れを覚えました。祈ることもむずかしく、神様は沈黙しておられるようでした。

やがて、再び神様の存在を感じることもできるようになりました。神様が沈黙しておられることを知っていました。神様の沈黙に苦しみました。今は違います。クリスチャンでいることは、広大な遊園地にいるようなものです。ある乗り物は、心地よく、ある乗り物にはハラハラさせられます。信仰は、人が経験できる最高のアドベンチャーです。今、神様が私に与えてくださるアドベンチャーが、日本でどんな展開を私に見せようとしておられるのかを楽しみにしています。

# 近くにおられる神様

— ブレンダ

私はニュージールランドのごくありふれた両親のもとに生まれ、四人きょうだい(妹二人と弟)の長子として育ちました。海岸のすぐ近くに住んでいたため、幼い頃はいつも海で泳いだり探検したりして過ごしていました。小さい頃の神様の印象は、どこか遠くにおられて、私には特に関心ももっておられない方、というものでした。

高校生の時です。ある友達から私を救世軍のイベントに誘ってくれました。もうそのイベントが何だったかよく覚えていないのですが、そこにいた人が何か違うなと感じたことを覚えていません。神様のことを話す時にとっても嬉しそうで、神様が彼らのごく近くにおられるように思えたのです。そこにいた人たちの親しみやすさや、喜んでる様子や本心に印象的でした。そして、救世軍の日曜日の礼拝に通うようになりまし

た。神様は、私を愛し、心にかけて、私の人生を導きたいと思っておられました。私は高校三年の時に、救世軍の兵士(信徒にあたる)となりました。

神様を信じるようになってからは、あの日、あの時です。とはっきり言える人がいますが、私にはそういう経験はありません。私にとっての信仰は、神様が私の人生に与えてくださった愛とご計画に徐々に目覚めていった、というものでした。神様は、私の人生に対する神様のご計画を示してくださいました。私は神様をますます信頼するようになり、多岐の人が私のために祈っていてくださいましたし、祈ってくれる人があることを知っていることは大きな力でした。

救世軍士官になることについて、「これだ!」というような出来事はありませんでした。神様が私に望んでおられることは、常に神様に私のすべてを、すべての時間をお献げすること



結婚後、11年で救世軍の士官となる学びを開始(右の写真は1995年撮影)

でした。簡単に言うならば、私の人生にとって、士官になることは一番自然な流れだったのです。

もし、若い頃に「救世軍の士官になりなさい」と言われたら、へなんて変なことを言うのだろうか」と笑ったことでしょうか。神様のことも救世軍のこともまったくくというほど知らなかったからです。けれども神様は、さまざまな方法と経験を通して私を成長させてくださいました。士官として遣わされた所でお出合った課題によって、私は成長させてい



夫ナイジェルは体調が悪かった時に、幼い頃によく遊んだ海岸を歩きました。その本心に慣れ親しんだ場所、神様は、はつきりと私に「大丈夫だよ」と告げてくださった。そして、聖書の言葉を示されました。「傷ついた葦を折ることなく、暗くなつてゆく灯心を消すことなく、裁きを導き出して、確かなものとす。」(イザヤ書42章3節)

神様は私に、「今、あなたたちは、あなたたちに起こっていることで、打ちのめされ、傷を受けるけれども、壊されることも、失われることもない」というメッセージをくださったのです。私はその御言葉にしがみつこうにしてその不安な時期を過ごしました。

ました。どうか車を止め、妻が運転して病院に行き、すぐに入院。けれども、その症状の原因はわからず、今も不明なのです。その後六、七年は、何度も再発しましたが、その発作がある三日前には、非常に鮮明な夢を見るので、いつ発作が起るかわかるようになりました。回復に五日から七日かかることもありましたが、その発作が起きた頃、私は神様の存在を感じることもできなくなり、恐れを覚えました。祈ることもむずかしく、神様は沈黙しておられるようでした。

やがて、再び神様の存在を感じることもできるようになりました。神様が沈黙しておられることを知っていました。神様の沈黙に苦しみました。今は違います。クリスチャンでいることは、広大な遊園地にいるようなものです。ある乗り物は、心地よく、ある乗り物にはハラハラさせられます。信仰は、人が経験できる最高のアドベンチャーです。今、神様が私に与えてくださるアドベンチャーが、日本でどんな展開を私に見せようとしておられるのかを楽しみにしています。

決して私から離れることはない、という神様に対する信仰を強めました。私にとって大切な聖書の言葉は折々に与えられ、特別な意味をもっています。数年前には、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(マルコによる福音書12章30節)

という言葉について二年間神様と語り合っていました。ヨハネの黙示録の四章、五章を読むことも大好きです。これからの人生が待っているかはわかりませんが、今まで神様は決してどんな時にも私から離れることはなかったことを知っています。神様の沈黙に苦しみました。今は違います。クリスチャンでいることは、広大な遊園地にいるようなものです。ある乗り物は、心地よく、ある乗り物にはハラハラさせられます。信仰は、人が経験できる最高のアドベンチャーです。今、神様が私に与えてくださるアドベンチャーが、日本でどんな展開を私に見せようとしておられるのかを楽しみにしています。

士官になつてから、子どものための働きを六年間することができました。その間、子どもたちが成長してリーダーになっていくのを見るのが何よりの喜びでした。そこでの働きの最後には、成長した彼らと共に、次の世代のために働いていました。そんな青年たちが今も神様のために働いています。士官になった人もいます。神様から与えられた可能性を十分に生かしている人々を見ることは大きな祝福です。

毎年、私はその年のテーマとなる聖書の言葉を神様に祈り求めています。今年「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、私の近くを救世軍が紹介してください。キリスト教についてもつと知りたいたいです。『ときのかえ』の購読を申し込みます。」

ご住所  
ご氏名  
ご氏名  
ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区)

http://www.salvationarmy.or.jp



### 世界をみつめて

#### 〈ブルキナファソ〉救世軍が活動する国と地域が130に！

救世軍は、8月、アフリカ西部にある国ブルキナファソでの活動を公式に開始いたします。2005年にブルキナファソでの救世軍の働きが検討され、2011年には、政府から救世軍に対して、国のどこにおいても福音を語ってよいとの認可が下り、国への登録が承認されました。その後、救世軍が求める要項の認可に向けて申請の調整が図られている間にも、3つのセンターを通して救世軍の活動は伸びていきました。8月25～27日、活動の正式な開始を祝う集会がおこなわれます。



#### 〈日本〉アメリカから青年の宣教チームが来日

6月11日(月)、救世軍のアメリカ中央軍国(本部シカゴ)から、5人の青年が宣教チームとして来日しました。7月19日(木)まで、東京地区を中心に、小隊(教会にあたる)で様々なプログラムを導き、子どもから高齢者まで、幅広い世代の多くの人に神様のすばらしさ、クリスチャンとなることの恵みを伝えました。(写真は横浜小隊で)



#### 〈オランダ〉新しいセンターの開所式が国王によって導かれる

オランダの救世軍は、アムステルダムに救世軍として国内最大のセンター「西の岬」(De Noordkaap)を開所しました。

開所式は、ウィレム・アレクサンダー国王によっておこなわれ、センターの駐車場では様々なイベントも開催し、



しながらお祭りのような賑わいを見せました。

このセンターは、13階建てのオフィスビルが改修されたもので、地域の人々への保健福祉や社会福祉の働きのために用いられます。街頭生活者や、問題を抱えた家族から逃れた人の避難所としての機能も提供し、利用者は個別に部屋を利用することができます。

1階のフロアにはリサイクルショップを設置。他にも、地域の子どものスカウト活動や、子どもの合唱隊が利用することになっています。

開所式の後、国王はセンターを見学しながら利用者やスタッフと親しく話す時をもち、救世軍の働きについて深い理解を示されました。



### 救世軍とは？ What is the Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍はイギリスに国際本部があるプロテスタントのキリスト教会です。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、東ロンドンのスラム街で、どのような境遇の人もイエス・キリストを信じるならば救われる、と伝道を始め、飢えている人には食べ物を、家のない人には宿泊場所を、仕事のない人には職業の斡旋を、アルコールにおぼれる人や搾取されている女性たちには、回復・更生のための施設を提供し、物心両面からの救いを目指しました。やがてこの働きを推し進めるために、軍隊流の組織を取り入れ、「The Salvation Army」と名づけました。



日本では1895(明治28)年に働きが始まりました。日本人で最初に士官(伝道者)になった山室軍平は、社会問題に取り組み、廃娼運動や結核療養所設立などに力を尽くして、キリスト教界だけでなく、明治～昭和初期の社会福祉史にもその名を残しました。現在、日本の救世軍では、43の小隊と、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して、働きを進めています。また、街頭生活者支援、災害被災者に対する長期にわたる支援をおこなっています。



救世軍のレッド・シールド(赤い盾)は、救世軍が人々のニーズに答えることを表すものです。19世紀初め、戦場での奉仕活動の際に、救世軍の奉仕者が「救世軍」と書かれた銀色の盾のバッジを身に着けたことから用いられ始めました。後に、夜間はバッジが光を反射させ敵軍に宿営を知らせる恐れがある、と赤色に変更しました。(右の写真はニュージーランドの募金で活躍するレッド・シールド)



#### (取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題はお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

#### 発行日及び定価

発行日 福音版・毎月一日発行

定価 福音版・毎月十五日発行除く七月

福音版・一部 四〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号(十一月一日号) 一部 一〇〇円

振替 〇〇二八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者 ケネス・メイナ

編集人 寺澤 真由子

〒101-0051 東京都千代田区

神田神保町二丁目十七

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社